



<b>第 3 8 号</b>  8 月 8 日 2 0 0 2 年	発行所 <b>岡山大学職員組合</b> 〒 700-8530 岡山市津島中 2-1-1 電話 086-252-1111 (代) (内線) 7168 直通・F A X 086-252-4148
--	--

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

### 2002年度岡大職組役員

役 職	氏 名	所 属
執行委員長	小畑 隆資	法 文 経
副委員長	榊原 精	工 学 部
"	荻野 勝	環 境 理 工
"	鈴木 茂之	理 学 部
書記長	中富 公一	法 文 経
執行委員	荒木 勝	法 文 経
"	児嶋 隆	"
"	味野 道信	理 学 部
"	奥 忍	教 育 学 部
"	河内 信子	"
"	諸川 重剛	環 境 理 工
"	神崎 浩	農 学 部
"	齋藤 邦行	"
"	村上 資郎	附 属 学 園
"	安原 弘子	"
"	荒嶋 康晴	医 学 部
"	矢田 範夫	"
"	山崎 典子	"
"	酒井 峰男	留 学 生 セ ン タ ー
会計監査委員	加藤 謙司	農 学 部
"	梶谷 信之	教 育 学 部
選挙管理委員	永田 博	法 文 経
"	品部 善博	環 境 理 工

## 2002年度岡大職組定期大会開催 人権を基軸にした 参加型の組合をめざして

ごあいさつ

執行委員長  
小畑 隆資

定期大会が7月9日開催され、小畑委員長が代表挨拶を行いました。大会では、岡大職組の活動報告、報告書の採択、新役員への選出、新役員への宣誓式が行われ、総務課長の挨拶、新役員への祝辞、新役員への激励などがありました。

これからは、新役員が中心となって、組合の発展を図ります。特に、人権を基軸にした参加型の組合をめざして、職員一人ひとりの力を発揮し、組合の発展に貢献してまいります。

新役員が中心となって、組合の発展を図ります。特に、人権を基軸にした参加型の組合をめざして、職員一人ひとりの力を発揮し、組合の発展に貢献してまいります。

座標軸

ボナパルティズムに就いて、国民を支配する能力が失われ、しかも労働者が階級がまだ支配能力を失っていない時期において、可能な唯一の政府形態である」という定義がある。

このボナパルティズムの政治学は、現在のポピュリスト政権小泉内閣の意味を理解する上で有益である。もちろん今日の日本に於いて、当時の分割地農に相当する存在として、日本の農民をあげることがあまり意味がないだろう。重要なことは主観的な自己規定である。

小泉内閣は、ブルジョワジーに対しては、「構造改革」や「規制緩和」既得権を別の支配層に移し替えるだけのものである。誰の目にも明らかである。ブルジョワジーに反対する人権擁護法、など目には見えないが、靖国参拝、メディア規制法、余る軍事態勢作り、アメリカへの軍事的従属直接化、人権蹂躪体制強化などなどを突きつけている。

小泉内閣は、疑いもなく、現段階のボナパルティズムである。支持率の急低落は、その「社会的基盤」が自分の誤解に気づき始めたことを示している。長野県知事もまた、広範な民衆の輿望の上に「脱ダム宣言」を出している。これも一つのボピュリズムである。議会と知事とのねじれと長野県民の輿望のゆくへを、注意深く追いかけて欲しい。

# 教研集会に向けて 岡大にコーラスの輪・和・話 教育学部 奥 忍

みなさんは、毎週水曜正午から1時間、教育学部北音楽棟3階ホールが歌声や笑い声で満ちあふれているのをご存知だろうか？  
その発音源こそ、我が連合体の諸氏なのである。目下、9月に岡山大学教職員組合をホストにして開催される全大協の今年度の教研集会に向けて、アトラクションの特訓中である。全国から集まる全大協の仲間を、岡山大学教職員組合のホームページでお迎えしようとの趣向である。こういった活動に無関心ではられない私は、7月3日に授業と会議の合間を縫って、練習場を訪ねてみた。突然の来訪者に向けられたのは、笑顔、笑顔、笑顔。それら笑顔に乗じて、私は急遽マスカット新聞の記者、インタビュアに転じた。以下は、そのレポートである。

外国人教師や事務方も加わっていらつしやるそうである。  
練習は、身体ほぐし、心ほぐしの体操から始まって、実に和やかに進行する。晴舞台をめざしての特訓とは言うものの、コーチは決して顔をしかめたり、声を荒げたりすることは無い。身体全体の動きを交え、具体的でユーモア豊かなコーチの助言に対する合唱団員は、これまたユーモア、いや歌声で応じている。コーチにほめられて、そのたびごとに声もまた調子づく。  
最も楽しそうな団員にインタビュアを申し込んだ。「はい、待つてました」とのりのりの法学部の小畑さん曰く、楽しい！ 体操から始まるのが、これまたいい。音楽には中学以来遠ざかっていた。声を出すことがとにかく楽しい。加藤先生の説明、声の出し方や表の指示が大変わかりやすい。音楽の感じ方や表現を言葉にするんだなあ、と感心しています。もっと早く、小学校の時にこういう先生に巡り会えば良かった。音楽の教員を排出している音楽

講座の教員には思い当たる節あり、インタビュアも納得しました。次は、組合事務所から、帽子をかぶり、自転車で駆けつけてくれた書記の宮本さん。曰く、合唱するのは何年ぶりかです。練習では自己解放している役員の姿が見られるのがうれしい。自己解放している人がいる環境の中では、周りの人も解放できるんだな、と感じる。加藤先生のコーチで、いつの間にか歌っているって感じて大変楽しい。  
さすが、何年も連合体の役員の手となり足となつて、一緒に仕事をしして来られた方である。合唱の楽しさと、団員の心の向かいようをちゃんと見ておられるんだ、とインタビュアはまたまた納得です。

教育学部の梶谷さんには選曲などについても伺いました。  
組合員の好きそうな歌、古い歌、最近の歌などいろいろの歌の中から「歌いやすい歌」を選んでいきます。次々と歌っていきます。だからもっと多くの人に來てほしい。水曜日の北音楽棟ホール、正午から1時間はみんなが歌いましよう。  
私自身は、大変残念なことに教研集会の日程が学会と重なつており、晴舞台の本番に参加することが出来ないう。でも、楽しい雰囲気、インタビュアだけで立ち去ることはできず、練習に加わって一緒に「ざわわ ざわわ ざわわ さとうきびばたけで・・・」と歌った。よい気持ちだった。周りの人の声が自分に向かつて響いてくる。響きの共有が、心の共感を呼び起こす。こんな時間帯が毎週水曜日の昼休みに、岡大に存在していたとは知らなかった。この気持ちをもっと多くの組合員に知ってほしい。もっと多くの団員が集まれば、歌声もさらに豊かに響くだろう。

私は心を歌声に残しながら、次の仕事のために音楽棟ホールを後にしました。ちなみに、練習を終わったグループがその後道で話し合っているのに出くわしました。今度はステージ衣装で盛り上がりました。  
みなさん、水曜の昼休みに、津島キャンパス東コーナー、教育学部北音楽棟を一度訪ねてみられませんか？（教育学部職員組合、マスカット）より転載させていただきました。

## 合唱 いよいよ 本番に向けて 総仕上げ

奥先生にたいへん楽しい練習風景を紹介していただいた合唱練習もいよいよ最終段階です。左記日程で練習をします。今からでも誰でも参加可能な水準です。ので、新しいメンバーのご参加をお待ちしています。ふるってご参加下さい。練習成果は、全大教研集会の第二日目・9月7日（土）の午後6時からマスカット3階で発表される懇親会で発表します。

【練習日程】  
8月27日（火）  
午後5時30分  
9月5日（木）  
午後5時30分  
場所：教育学部  
音楽棟3階

【乞御期待】  
加藤晴子先生、本番で「アメイジン グレイス」をご披露の予定。

## 散歩道

彼との邂逅は、二年ぶりくらいのことだろうか。彼、もしくは彼女とは、実は神社の森の狐のことである。  
初めて彼と出会ったのは、5年前のことである。農道の行く手30メートルほど先、彼は横半身を見せる形で、やや小首をかしげながら、こちらを窺っていた。あ、と目があつた瞬間、彼は身をたわわに実つた稲穂の中に躍らせて私の視野から姿を消した。  
二度目に出会つたのは、あの梅林の斜面である。坂の頂上で、彼ははじめと全く姿勢を変えずで、息を切らせて坂を上ってくる私を眺めていた。  
私は思わず手を挙げて、や、と声をかけた。一呼吸、彼は私が近づくののを待っていた。そして一散に神社の森の方へかけ去つた。  
開発の斧鉞は、神社の森にも及んでいない。すかつりせばめられてしまったこの貧弱な森が、彼と一族の生活が可能にするのかかはあやぶんだ。  
三度目の出会いは、消え残つた雪が路傍に黒ずんでいる寒い朝だった。神社の境内をぬけて老人クラブにさしかかる十字路だった。ほとんど出会い頭に私は彼と向き合つた。  
私も愕いたが、彼も愕いたようだった。「ケン」と一声鋭くないたかと思うと、彼は身を翻して森の中へ駆け去つた。ともあれ、彼がこの冬を乗り切つたことが分かつて私の心は和んだ。だが、それを境に彼の姿をバツタリ見なくなつた。  
今朝のこと、背後に迫る足音が不快だった。私を捉え、追い越しそうなテンポである。さりげなく、私は歩調をあげる。だが、足音はさらに近づく。私は意地になつた。  
向こうもそうなのだろう。私はほとんど小走りになつていった。神社に向けて道を横におれる頃、ようやく足音は遠のいた。歩速を緩めるでもなく、だから坂を私を上つていった。  
その坂の頂上で、彼が私をみていた。いつものポーズで。心なしか小振りになつたようにも見える。この瞬間の遭遇は、私が足音に迫られて、歩速をあげたが故に可能になつたのだ。大げさにいえば私は運命を感じた。また、彼と一族の健康が私を幸せにした。

梅雨寒や  
狐が招く  
女坂  
(k)